

地震発生

もし、突然強い地震が起きたら
あなたはどうしますか？



避難する生徒たち



机の下に避難



介助する教員



消防署到着



救急車に運ばれる生徒たち

6月20日、午後2時42分突然、久木野中学校の構内に「ゴーツ」という音と共に「地震発生」の緊急放送が鳴り響きました。教室の窓側に逃げる生徒や机の下に潜り込む生徒たち。教科書で頭を覆いながら一目散に玄関に避難しましたが、校舎内の崩壊で出口は閉鎖。急ぎよ、避難経路を変更し、体育館に避難しました。工作室では、打ち合せ中の生徒数人が負傷。校内のランチルームからは火災が発生しました。

実はこの地震、久木野中学校が、全校生徒と先生を対象に実施した防災訓練なのです。この訓練は、一部を除く教員と生徒以外には予告されておらず、突然の地震と災害にどのように対処するかを把握するために実施された抜き打ち防災訓練でした。

訓練には、阿蘇広域消防本部南部分署の署員や、村消防団機動分団、女性消防分団、学校安全委員、役場担当者など約50人が事前打ち合わせを行い、訓練に協力しました。

訓練終了後、避難までの経緯を録画した映像が公開され、多くの課題を確認することができました。



久木野中学校
坂梨 光一 校長

自ら命を守り抜く力をつける

今回の訓練は、あえて休み時間に行いました。災害は教室にいる時に起きるとは限りません。各々の場所で災害が起きた場合、生徒や先生たち個人個人がどのように行動するのかを把握し、課題を見つけることが目的でした。生き抜くための訓練だから失敗があってもいいんです。失敗を経験し、それを次につなげることが大切です。自分の命を大切に思い、そして好きになることが、「人を大切にできる心」、「命を守り抜く力」につながっていくのだと思っています。



久木野中学校3年
今村 天斗 さん

経験することが大事

体育安全委員会として、今年から自分たちで月1回、校内の防犯ベル点検や、地震が起きた場合に備えて危険箇所の点検をしています。訓練では、初めて消火活動しましたが、ホースが重く大変でした。今回の訓練を通して、いざという時に対応できるよう、生徒みんなが消火栓の使い方などを経験しておかなければいけないと感じました。そして、自分たちが持っている情報を共有するためにも、声を出して伝え合うことが大切だと思いました。



阿蘇広域消防本部
南部分署消防3課
薄井 良文 小隊長

防災だけではなく「減災」を考える

今回の訓練は、個々の判断力を養うことが目的でした。自然災害を完全に防ぐことは困難です。災害発生時は、まず命を守ることが大前提ですが、最小限に被害を止めることも大事です。「まさか」の事態がおきた場合、臨機応変に対応するためには、日ごろから、建物の仕組みや消防設備などを把握し、それを有効機能させなければなりません。また、受け身の情報共有ではなく、積極的に情報を収集することで迅速で適切な対応ができ、減災につながります。